

熊本ウィンターセミナー 外伝 ～教員なら本気で学んで本気で遊べ！遠征教研の楽しみ方①～

熊本行って何もせずに帰ってくる？ 否！

本通信の3号でウィンターセミナーの振り返りをさせていただきましたが、当然、熊本まで行って教研だけしてくるなんてもったいない！もはや何かしなければ交通費を出してくれた単組に申し訳ない！今回は、神奈川の一人の青年がウィンターセミナー学びきった！楽しみきった！記録を共有したいと思います。

勝負は1日前から

今回のウィンターセミナーの日程は1月12日（日）の午後から13日（祝）の午前中までの予定。熊本を楽しみきるにはやはり、丸一日は欲しい。前日11日、羽田6:30発 8:30 熊本着の飛行機を予約し、いざ熊本へ！

6:30 羽田発に間に合わない？！

意気揚々と出発の前日に羽田までの電車を調べていると、なんと最寄り駅の始発でもフライトに間に合わないことが発覚！初日からタクシーを使う勇気もなく旅の始まりは、早朝4時、4kmのウォーキングから幕を開けた。

無事、8:30に熊本空港につき早速、かの有名な黒い熊が出迎えてくれた。レンタカー屋さんの車に乗り込みお店まで運んでもらった。9:00からドライブスタート！



向かったのはやっぱり阿蘇山！

やはり理科の教員としては、阿蘇山は欠かせない。理科の教員に見えないといわれることも多いが、これでも一応、理科教員2世である。阿蘇山の山頂付近は-5℃と横浜育ちのcity boyには本気でしびれる寒さだったが、阿蘇の雄大で大地に命を感じさせる光景に自然と体温が上がった。



草千里展望所には火山博物館があり、もちろん見学したが、今まで見学した博物館の中で、一番渋いというかレトロな博物館だった。展示物は古いものが多

かった。しかし、一つ一つ丁寧かつ本気で作りこまれていると強く感じる事ができる展示物だった。特に印象深かったのは、ジオラマ模型が動き阿蘇の外輪山と阿蘇山、カルデラの成り立ちを

解説してくれる展示物で、はっきり言ってCGよりも分かりやすく、印象に残る展示物だった。近年、理科の授業も映像コンテンツが充実し、手間のかかる実験も簡単に見せることが可能になった

が、実物の迫力や模型であっても目の前に物体がありそれが動く展示物に比べると、まだまだ人間に与える情報量には圧倒的な差があると感じた。理解に留まらず感動がある授業を展開したいと思える機会となった。火山の調子が良ければ、火口が見えるところまで近づくことができるが、この日がガスの濃度が濃く見学することがかなわなかった。リベンジ必須である。



熊本ウィンターセミナー 外伝 ～教員なら本気で学んで本気で遊べ！遠征教研の楽しみ方②～

湯につかろう！でも地獄！

やっぱり寒かった(´；ω；`)カ…ということで、南に下って温泉に入ることにした、その名も「地獄温泉」別府の地獄温泉は有名だが阿蘇にも地獄はあった。地獄温泉に行く途中、かなり地面が凍結していた。Low ギア入れて徐行していると、車がゆっく

り滑り始めた。ブレーキを全踏みするも車は滑り続け、サイドブレーキをかけてから50cmほど進んで停車した。人生で初めての経験だったのでかなり動揺したが、なんで地獄に行くのにこんな苦勞しなければいけないのか腹が立った。やっとの思いでたどり着いた「地獄温泉」。今回お世話になったのは地獄温泉「青風荘」。地獄なのになんとも涼やかな名前であ

る。シャレオツな受付で料金を払い、無事地獄入り。地獄だけあって箱根強羅温泉の源泉かけ流しよりも硫黄が濃く感じた。露天なので死にはしないだろう。下から湧いて出る感じも、なんとも地獄っぽい。しかし、本当の地獄は湯船から出るときだった。なにせ外気は未だマイナス。限界まで温まり、雪を踏み締めながらそそくさと地獄を後にした。

地獄の後は神話の地へ

地獄の後は、日本神話で最も有名な場所？高千穂へ！思いのほか火山博物館の見学と地獄への移動に時間がかかってしまったので、高千穂の中でもピンポイントで天岩戸神社へ向かうことにした。車で移動している最中、阿蘇山と外輪山に挟まれた南阿蘇を通過したが、ドライブしているだけでスケールの大きさと面白さを感じることができた。



天岩戸は天照大神（アマテラスオオミカミ）の弟：須佐之男命（スサノオノミコト）が田んぼの畦を壊したり、馬の皮をはいたりといった、行き過ぎた行いをした為、天照大神が隠れてしまった場所です。そして天照大神をどうやって外に出そうか作戦会議をした場所が、天岩戸から100mほど上流にある天野河原という大きくくぼんだ場所になります。ここで執行委員会とか開いたら良い打開策が見つかるのかも、なんて思ってしまった。



天岩戸で初詣と初おみくじ、結果は・・・大吉！

これは幸先が良い！

願い事：首尾よく叶う、しかし油断すれば破れる

これは、神奈川ウィンター成功間違いなし？実はクリスチャンホーム生まれた私（ペテロ）だが、日本の神様は世界のほとんどの宗教を包み込んでくれると信じているのできっと大丈夫。少し遅めの初もうでとなった。そういえば、今年の正月、幕末に北海道に左遷された先祖の写真を祖母が見してくれた。なんでも今の名字を名乗った初代なんだとか、もし似ている人がいたら私なので声をかけてみてほしい。



さて、日が暮れ始め急いで空港近くのレンタカー屋さんに車を戻すことにした。返却後また空港まで送ってもらった。その車で運転手の方と少し話した。これは、2日目にタクシーに乗った時もそうだったが、熊本の人は「〇〇を見てきました」というと「おおーいいねー、良かったでしょ？」と言ってくれる。地元を観光した人に対して、良かったでしょ？と自然に言えるのはなんだかうらやましい。自分だったら、大変だったでしょ？とか言ってしまうそう。出身は？と聞かれたらもちろん横浜と即答するほどに地元には自信を持っているが、こういう棘のない感じは素敵な地元愛の形だなと思った。

熊本ウィンターセミナー 外伝 ~教員なら本気で学んで本気で遊べ！遠征教研の楽しみ方③~

1 日目の最後に

熊本駅前の東横インにチェックインした後、一日目の締めをどうするか考えていた。近くに、熊本ラーメン黒亭の本店があったので、馬刺しに後ろ髪をひかれながら、そちらに向かった。見た目よりも味は大人しく、やっぱりなんだかんだ関東の人間の方が、味が濃いのが好きなんだなと思った。豚骨、マー油、鶏がら、中太のストレート麺が特徴である。



こうやって、その土地の味を知ることも教研の醍醐味である。

やっと2日目

3日目までであるというのに、やっと2日目。2日目の午後からウィンターセミナーが始まってしまうので、朝から急いで、熊本城に向かうことにした。2016



年4月に熊本地震があり、熊本城も大きな被害を受けたが、天守は復旧が進んでいた。しかし、石垣は未だに修復できていない場所が多くあり当時の被害のすさまじさを感じさせた。見学ルートも石垣の間ではなく、上に橋を架けて崩落の被害が出ないものになっていた。天守内部は資料館、もはや近代的な博物館と言っ



てよいものになっており、上の階に進むと現代に近づく仕組みになっていた。

天守から一通り熊本市内を眺め、降りてゆくと、これから最上階に上ろうとする、緑が丘の先生2名とすれ違った。こんな偶然もあるのだと思いながら、我々は昼食を共にすることとなった。昼食は熊本城の下の方に飲食店や土産屋がたくさん集まったエリアがあったのでそこを利用した。初日に馬刺しを逃したのでどうしても肉を食べたかった。そこで、熊本のもう一つの肉「あか牛」を食すべく店を探した。店は込み合っており店頭の名標に



名前を書き順番を待つことにした。当然、順番を待っている最中、我慢できるはずもなく、馬肉メンチと油揚げを食してしまった。馬肉メンチ、どの辺が馬の風味なのか、普段食べていないので分からなかったが、とにかく旨かった。かりふわの

油揚げ、これもなかなか素晴らしかった。観光にお決まりのソフトクリームもあったが、さすがに牛の前にソフトはよくないだろうという、理性がはたらいた。



誘惑と戦っていると名前を呼ばれて入店。3人で迷わず「あか牛丼BIG」を注文。会話しているとすぐに着丼。これもまた素晴らしい。一緒についてきた「だご汁」も優しい味でとてもよかった。おやつは別腹というが、きっとあか牛もそうなのであろう。サクサクと無心で食べ進め、楽しいときはあっという間に終わってしまった。

心とお腹を満たした一行は一路ウィンターセミナーの会場へ向かうのであった。以後のことはKWS3号に記載。

熊本ウィンターセミナー 外伝 ～教員なら本気で学んで本気で遊べ！遠征教研の楽しみ方④～

ウィンターセミナー終了後

まだ外伝は終わらない！

3日目の昼、ウィンターセミナーが終了し各々帰路につく。フライトの時間がぎりぎりだと急ぐ先生方を横目に余裕の19:10発予定の私は次なる、自主研修に向かった。

まずは腹ごしらえ

熊本の中心街は栄えていて、巨大なアーケードの商店街は関東ではお目にかかれないうスケールだった。スマホの情報を頼りにまずは腹ごしらえ。熊本ラーメン桂花本店へ。この際、出先なので贅沢にいろいろ追加したらすごいことになってしまった。



これがすんなり収まってしまふこの体も、そろそろどうにかしないとイケないのかもしれない。



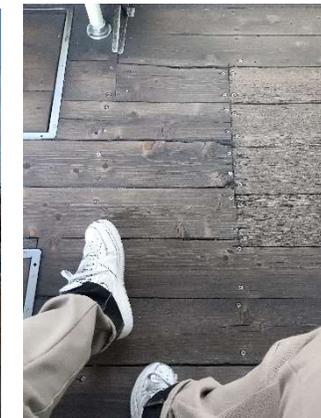
あと4年で100周年

熊本市動植物園



私は遠出した時には、その土地の動物園に行くことにしている。地域によって展示の仕方や園内のちょっとした掲示物、雰囲気などが異なるからだ。今回、見学した熊本市動植物園は2029年になんと100周年を迎える歴史ある動物園だ。古い動物園だけあって、動物との距離がかなり近い。トラなんかは特に、手を少し伸ばせば息がかかってしまいそうな距離だ。また、動物の名前も少し変わっていて、ツキノワグマの桔平、キリンの小夏、シシオザルのマサヒロなど人間っぽい名前が多かった。ここら辺のセンスも地域柄が出るところで面白い。

熊本市街から動植物公園に行くまで利用したのが、市内を走る路面電車である。ここら辺では見ることはないが、熊本ではかなり古い電車も現役で走っている。この令和の時代に床が板張りの乗り物に乗れるとは、鉄道オタクではないが感動した。写真のような大きな駅もあれば、幅40cmでレンガを一段積み上げたほどの小さな駅もあった。しかし支払いは、現金、交通系ICカード



はもちろんクレジットカードまで使えるほどハイテクで、内外装とのミスマッチが何とも言えない。

空港に行き帰りの飛行機を待つ間、お土産を買いこんだ、両親や姪っ子家族、そして何より職場の組合員に。職場唯一の参加なので、一人で組合員全員に配らなければならない。まあ、こんなに充実した研修旅行ができたのだから良しとしよう。

最後に、2日目に我慢していた、ソフトクリームを空港で食し、今回の旅は終了となった。

いかがだったであろうか。自分としてはやり切った感が満載で、是非皆さんにも組合の活動を通して楽しんでほしいと思っている。今年の夏には全私研が中国・四国ブロックで開催される。神奈川から一緒に外に出て学びそして楽しむ仲間を募りたい。



これを読んで少しでも行こうかな、行ったら楽しいかもと思ってくださる人がいたら幸いです。

神奈川ウィンターに向けて一緒に盛り上がりましょう！